

# 一般国道8号 栄拡幅に係る新規事業採択時評価

- ・2車線ボトルネック解消により、冬期を含めた円滑な物流が確保され、企業誘致・企業活動を支援。
- ・交通事故の減少により、地域住民の安全性向上が期待。

## 1. 事業概要

・起終点：新潟県三条市一ツ屋敷新田  
～新潟県三条市千把野新田

・延長等：3.2km  
(第3種1級、4車線、設計速度80km/h)

・全体事業費：約150億円  
・計画交通量：約35,000台/日

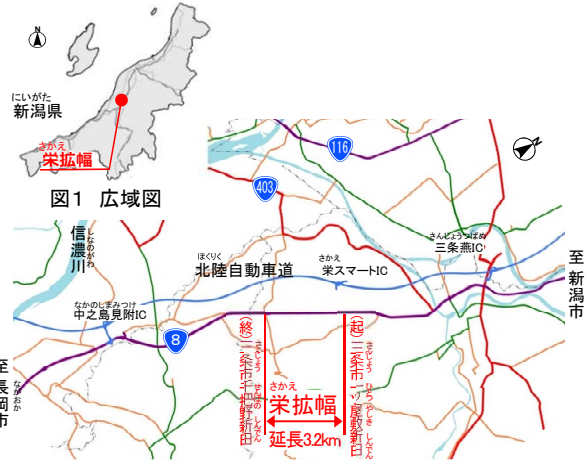
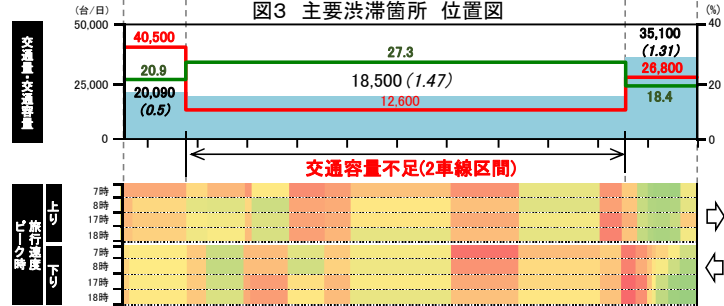
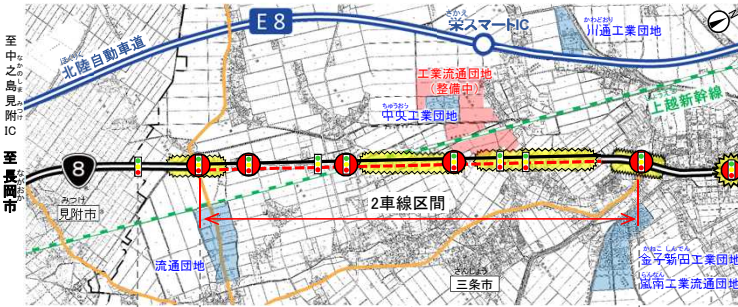


図2 事業位置図

## 2. 課題

### ① 物流・生活交通の輻輳による交通容量が不足

- ・当該区間周辺には、工業団地・流通団地が立地しており、製造業等が集積。
- ・当該区間の交通量は、物流交通と生活交通が輻輳し、交通容量約12,600台/日に対し約18,500台/日が通行するなど、交通容量が不足。主要渋滞箇所を中心に速度低下が発生。
- ・当該区間周辺には、新たに工業団地(約34.5ha)が分譲されており(R3.12月時点：8割内定済)、交通需要増加により更なる容量不足が発生し、企業活動や日常生活への支障が懸念される。



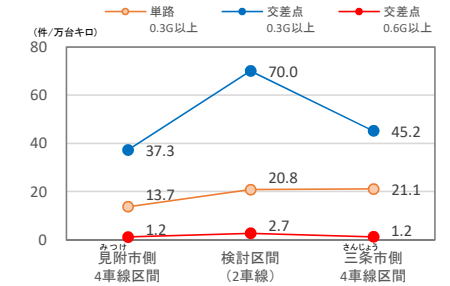
### ◆新潟県渋滞対策協議会委員(商工会)の意見

・国道8号栄地区は、前後の4車線区間に挟まれた2車線区間であるため、ボトルネック区間となっている。車両減少部での合流トラブル事例もあり、安全な走行が阻害されているほか、当該区間通過に要する時間が読めないことによる運搬の経済損失が生じているため、早急な対応が必要。

出典：第13回新潟県渋滞対策協議会の結果概要(R3年9月)

### ② 交通事故の多発

- ・当該区間には、事故危険区間が3区間存在。(図3)沿線に事業所が多数立地しており、沿道乗入れに起因した単路部での事故や交通容量不足による速度低下が要因の事故が多発。
- ・検討区間の急ブレーキ発生率は、単路部では、三条市側4車線区間と同程度、交差点部では、前後4車線区間の約2倍高くなっており、潜在的な危険箇所が多い。



### ③ 冬期における交通環境悪化

- ・当該区間は降雪量が多く、積雪時には路肩の一次堆雪により、沿線事業所へ流入する際に後続車の通り抜けができず、長い滞留が発生。



## 3. 整備効果

### 効果1 ボトルネック解消により、企業活動を支援【◎】

- ・対象区間の整備により、交通容量が増加し混雑の緩和が期待される。  
〔旅行速度 現況 34km/h → 整備後 46km/h〕  
対象区間：栄拡幅区間 (出典：現況\_H27全国道路・街路交通状況調査 整備後\_R22将来交通量推計)
- ・対象区間沿線には、工業団地や事業所が多数立地しており、対象区間の整備により定時性が確保され、地域の産業を支える物流の信頼性が向上。
- ・(現在)三条市内に新たな工業団地(約34.5ha)を分譲中。(R3.12月時点：8割内定済)
- ・(今後)工業団地の分譲促進による地域振興の支援が期待される。

### 効果2 地域住民の安全性の向上【◎】

- ・対象区間の整備により、速度低下や沿道乗入れに起因した事故の削減が期待される。  
死傷事故件数〔現況 120件/10年 → 整備後 112件/10年〕  
対象区間：栄拡幅区間 (出典：ITARDAデータ)

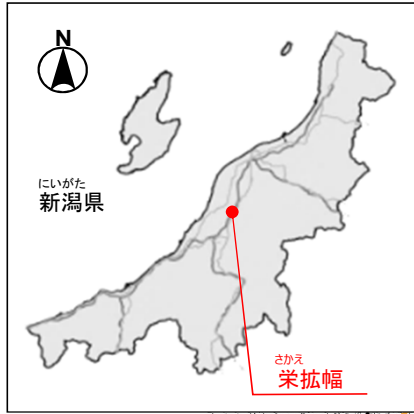
### 効果3 冬期交通の円滑化【◎】

- ・対象区間の整備により、冬期交通上のボトルネックが解消し、冬期間におけるスムーズな交通の確保が期待される。  
〔冬期旅行速度低下率 現況 18% → 整備後 9%〕  
対象区間：栄拡幅区間 (出典：ETC.0)

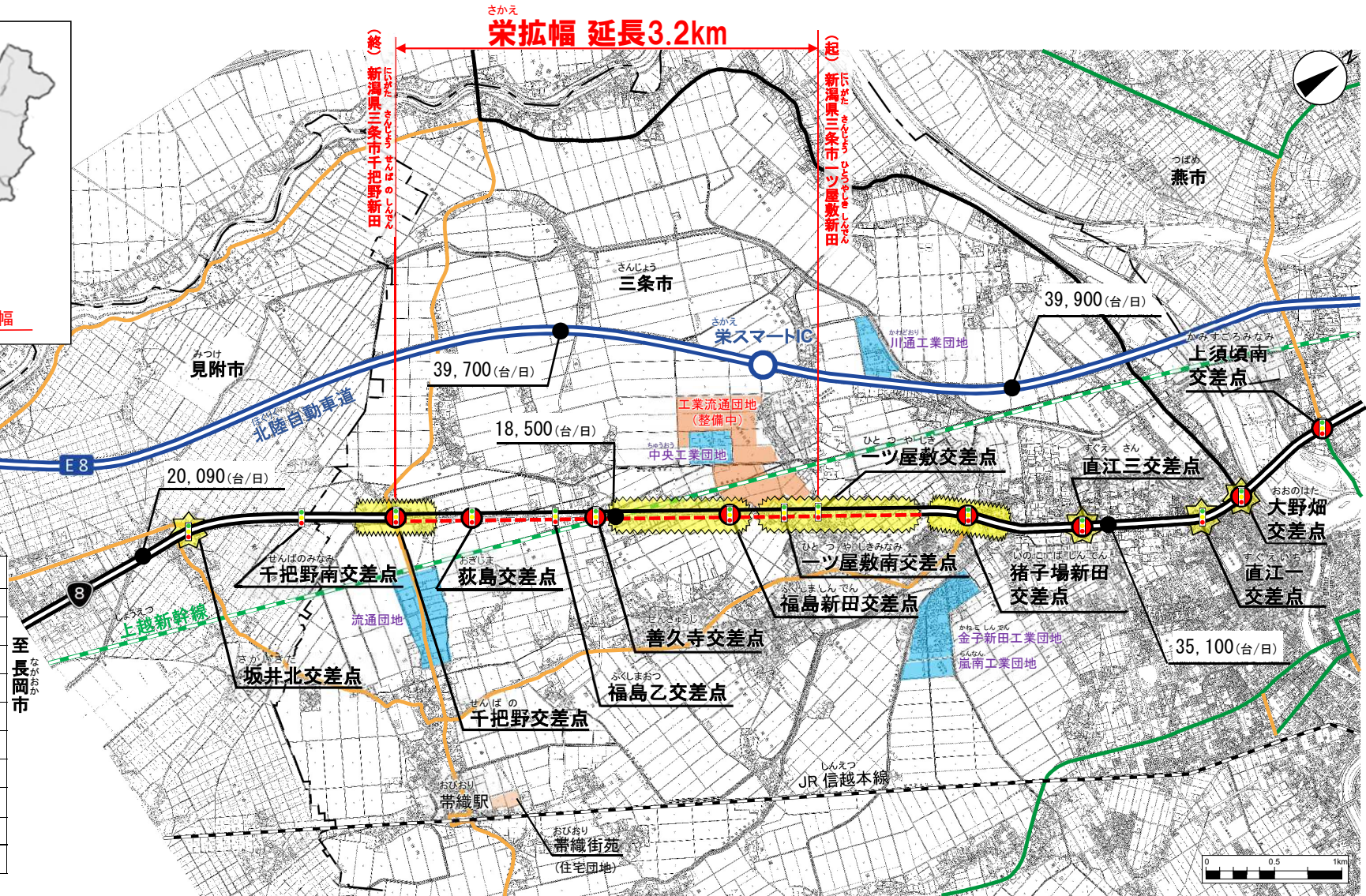
B/C	EIRR※1	総費用	総便益
1.5	6.1%	127億円※2	188億円※2

※1：EIRR：経済的内部収益率  
※2：基準年(R3年)における現在価値を記載(現在価値算出のための社会的割引率：4%)

# 一般国道8号 栄拡幅に係る新規事業採択時評価



至中之島見附IC



至三条燕IC 至新潟市

凡例	
	対象区間
	一般国道
	主要地方道
	一般県道
	主要渋滞箇所
	事故危険区間
	交通量(台/日) 大形車混入率
	工業団地
	工業団地(整備中)
	信号交差点

【計画縦断面図】※縦断線形は現況(LEVEL~0.1%)を維持

【標準横断面図】

